

OPI テスターへの挑戦で学んだこと

范一楠

仕事のためや研究のためなど、OPI テスターを目指す理由は人それぞれだと思いますが、そんなメインの目的のほかにもいろいろなサプライズが付いてくるのだと、今回の挑戦を通してわかりました。私がいただいたサプライズは4つです。

1 つ目は聴くことについての学びです。「今は日本語で表現できたが精一杯だった」、「今は日本語に困っているのではなくて話す内容を考えている」、「もっと言いたいことはあるようだが、日本語の問題で諦めている」など、目の前にいる学習者の内面の声が聞こえ、学習者のことがもっとわかるようになりました。

2 つ目は訊くことについての学びです。相手が話したいことや興味を持っている話題を見つけ出し、それらの話題を使って僅か 30 分の中で学習者の日本語の上限を探るというハードな活動ですが、「まだ話したい」、「またテストを受けたい」という声を聞くことが多かったです。おまけに居酒屋でも時々隣の日本人に「訊き上手だね」と言われるようになりましたが、気が抜くと「もしその法案が通っていなかったら、世界規模の戦争が起こったときに日本はどうやって自分を守ったらいいと思いますか」と訊いてしまい「えっ？」と言われることがあります。

3 つ目は話すことについての学びです。海外で日本語を勉強した私は、筆記テスト重視の授業を受けてきました。話す能力を測定できるテストが普及しなかったのが原因の 1 つです。そんな私は話す能力について、習った日本語を口に出すこと、たくさん話すことという理解にとどまっていた。テスターへの挑戦を通して、話すことの魅力、そして話すことには何が一番大事なのかについて理解を深めました。今後はテストそのもの、またはその理念を海外の日本語教育現場に持っていきたいと思っています。

4 つ目は教えることについての学びです。練習ラウンドと認定ラウンドのとき被験者探しに協力してくださった日本語学校で、日本語非常勤講師として働かせてもらうことになりました。学習者の話す能力を高めるために、OPI を授業に生かすためにどうしたらいいかをこれから学んでいく機会を得ました。テスター資格の取得は、学びの終了を意味するのではなく、学びのスタートだと感じました。